

令和4年度第2回羽島市総合教育会議（会議要旨）

日 時	令和5年2月14日(火) 午後1時23分～午後3時5分
場 所	羽島市役所第1委員会室
出席者	森嘉長教育長、黒田淳教育委員、今枝甫教育委員 春日民奈教育委員、今井田裕子教育委員 松井聡市長 （事務局職員） 伊藤市民協働部長、岩田生涯学習課長、大橋同課主幹 （関係課職員） 今井田教育委員会事務局長、小川教育委員会事務局次長兼教育政策課長、南部学校教育課長、長江教育支援センター所長補佐、 箕浦スポーツ推進課長
内 容	1 開会 ・会議公開及び傍聴の有無の報告 ・資料確認 2 あいさつ （市長） 3 協議 [説明] 教育委員会事務局から、「コミュニティ・スクール」に係る概要を説明 [意見交換] （市長） 学校安全部会、学習支援部会、学校環境部会の順番で、ご質問、ご意見等を賜りたい。 —学校安全部会について— （教育委員会） 交通安全協会やボランティアの方々によって、児童の登下校の見守りをよくやっていただいております。見守り一つにしても校区によってその組織力に差があると感じている。 例えば、地域安全 Map や防災マニュアルについては、大人のみでなく、小中学生を含め積極的に取り組んでいる校区がある。 学校運営方針が学校内のみの方針として留まるものか、校区や地域を巻き込んだコミュニティ・スクールとしての運営方針となって

いるかで、活動の効果に違いが現れる。

(市長)

小規模な中学校校区と大規模な中学校校区の活動では、環境面での課題が違ってくる。

(教育委員会)

私の地域では、老人クラブ等の地域の方々が協力して登下校の見守りをを行っているが、寒さが続いた際に、歩いて登校する児童が一人もいない日があると聞いた。活動を無駄にしないためにも難しいと思うが、見守りをされている方と保護者が密に連携をとれば良いと思っている。

(市長)

地域ボランティアの方々との情報共有が必要であるという認識でよろしいか。

(教育委員会事務局)

これまでも下校時刻が変更になった際に、ボランティアの方々との連携が取れていないとの苦情が学校に届いたことがある。そのため、下校時刻をお知らせするようにしている。また、保護者との連携を図れるよう各学校で対策を講じていきたい。

(市長)

地域安全 Map の見直しや作成、地域防災士による訓練について先進的な事例がある。地区によって防災士の数に偏りがあり、訓練を機動的に行えるところとそうでないところがあると感じている。

(教育委員会)

横断歩道等の要望など、子どもの安全につながることについては要望していくべきだと思う。

少子化の中で、子どもたちを地域で育成し、守っていくことは今後ますます重要になってくると思う。

(市長)

安全面に係る市に出された要望等について、県の公安委員会へつなげていく。また、地域でリスクの高いところについて、市と情報共有を図りながら、Map 作りや通学路の見直しを進めていくというこ

とでよいか。

(教育委員会事務局)

今年度も、学校をはじめ自治会等から横断歩道の取り付けやカラー舗装等の要望をたくさんいただいた。横断歩道の取り付けはルール上難しい場合がある。学校周辺のカラー舗装については、市の関係部署とも協力し、今後順次進めていきたい。

—学習支援部会について—

(教育委員会)

コロナ禍で活動の中止や縮小があったと思うが、最近は再開されている活動が多いように感じる。

地域が学校を支援するばかりではなく、子どもも地域で学ぶ、子どもと大人と一緒に学ぶといった方向性や関係性について、今後考えていく必要がある。

(教育委員会)

学校での、活動ごとに、地域の方に入っていただく人数の計画を示し、ボランティアの方が見通しをもって活動ができる仕組みがあるとよい。

小熊小学校の「命を守る訓練」は、老人クラブや保護者等にも声かけし、地域全体で一緒に学べる活動である。

(市長)

学習支援について、先取りスケジュールで柔軟に対応しながら年間活動を行っている実態はあるか。

(教育委員会事務局)

学校での総合学習について、地域の方をお願いすることがあり、計画的に行っている。

(教育委員会)

学校行事への父親の参加をよく見る。「すぐーる」を活用し得意分野の聞き取りを行い、それぞれの得意分野を活かして子どもたちと活動できるとよい。

子どもが地域の方にお世話になっているところを見る機会が少ないが、実際に見てお世話になっていると感じることができれば、もっと親も一緒になって関わりやすくなると思う。

(市長)

「すぐーる」を用いた有効活用事例はあるか。

(教育委員会事務局)

「すぐーる」ではないが、柔軟な募集をかけている。「すぐーる」を活用して広く募集することはよいアイデアである。

(市長)

桑原の夏祭りでは中学生がダンスを踊り、コミュニティセンターが関わってみえたが、その様子を聞かせていただきたい。

(教育委員会)

桑原校区の夏祭りは、保育園児から大人まで、桑原音頭をはじめダンスを踊っていた。また、PTAをはじめ地域の方々が出店を出し、賑わっていた。このところ、コロナの影響で地域をあげて住民が参加する活動が少なくなってきた。

地域ボランティアの世代交代が進んでいるが、学校側からの働きかけが必要になってくると思う。

(教育委員会)

コミュニティ・スクールということで、学校が児童生徒に対して地域の行事へ参加するよう働きかけをしていただきたいと思う。

コミュニティセンターと学校が協力し、子どもの教育に携わる。コミュニティ・スクールの延長線上に、地域づくりやまちづくりが繋がっていくとよい。

(市長)

ノーマライゼーションの観点から、羽島特別支援学校と正木の交流事業があるが、現状をご紹介いただきたい。

(教育委員会)

特別支援学校に通学する児童生徒が、住んでいる校区の学校の児童生徒と交流する事業がある。コロナ禍ということで、対面ではなく手紙や授業で作った作品での交流になっていると聞いている。また、先日はポッチャ大会を特別支援学校で開催した。

—学校環境部会について

(教育委員会)

少子高齢社会の中で、自助共助の考えが重要になる。学校においても、今後行政が学校を全て支えていくような構図は難しい。「地域とともにある学校」という視点から、学びの環境を整えていくには、学校だけでなく地域と一体になって行っていく必要がある。

(市長)

天井の雨漏り工事といったような行政が担っていかなくてはいけない環境整備がある。地域住民や子どもたちも一緒に環境整備に関わる活動へ参画するという意識が必要になってくる。環境整備について改善点があればご意見を伺いたい。

(教育委員会)

学校の環境整備について、中学生を対象にペンキ塗りなど安全で簡単な作業に取り組んでいただくというのはどうか。生徒自身が達成感を感じることができるような形で進められればよい。

(教育委員会)

学校と地域の双方向で情報交換を行うとよい。学校から積極的に地域へ依頼を行い、できる整備から取り組んでいくことで、教員が本来の業務に集中できるようになると思う。

(教育委員会)

学校の清掃は、小学校高学年の児童に伝え一緒に清掃活動を行うというのも可能である。

(教育委員会)

一番の課題は、学校で出された要望を地域のどの方かに依頼するとよいのかといった調整をする人がいないということである。地域の中で教育に関わるコーディネーターを育成しないと、学校の要望と地域の要望が繋がっていかないと感じている。教育関係者で地域のこともよく知っているような方がコーディネーターになってくださると活動がスムーズに運ぶ。

(生涯学習課)

学校や子どもを核とした地域づくりを目指す活動の一つに、放課後子ども教室がある。今年度は全 9 つの学校で行っており、お囃子や雨乞い踊り等の体験活動を地域協力者とともに行った。

地域行事への参画については、先日「日本伝統芸能継承者育成の

会」で竹鼻小学校の6年生が演奏発表した。こういった機会を通して、地域の方も子どもたちの成長を支えていると感じられるようになる。

課題としては、地域協力者の固定化や高齢化への対応、教員の異動時における地域の事情を踏まえた連携のあり方についての引き継ぎを行うことが考えられる。

今後の方向性は、保護者に子どもの卒業後についても学校と関わりを持ち続けていただくこと、管理職以外の教員や事務職員に学校運営協議会へ参加してもらうことが考えられる。また、地域保護者への啓発を進めていくことで、地域の人材育成が図られると考えている。

(市長)

地域における人的資源が重要になってくる。正木小校区では、子ども会が主となり防災や様々なイベントを開催している。羽島中学校や羽島高校の生徒がサポートをしているがそういう形で地域行事が発展していくことは理想的である。

(教育委員会)

コミュニティ・スクールの今後の進め方については、学校と協議会が連携を密にして定期的に情報共有することで、取り組みを発展させていくことが必要である。

(教育委員会)

伝統芸能の話があったが、小学生で教わったことを中学生になり小学生に指導するという形は、子どもたちも身近に関われると思う。

(市長)

義務教育学校にはその利点がある。

(教育委員会)

学校運営協議会の委員はそれぞれの立場から構成され、委員一人ひとりにリーダーシップを発揮していただきたい。

学校運営協議会の権限と機能等について、学校や行政からの支援と合わせて見直しを行う必要がある。

委員からの意見でもあったが、地域の方と子どもたちの交流活動では、子どもが主体となり、大人も一緒に成長できる教育活動を仕組んでいただきたい。

(教育委員会)

学校運営協議会の委員は、小学校と中学校で兼務している方もおり、会議の回数が多いという意見もある。中学校は小学校の校区も含んでいるが、各部会だけでも動ける組織を作り、子どもたちや教員と近い距離間で計画や実行ができる効率的で実践的な組織であってほしい。

(市長)

人員の重複や同じような会議が行われているかどうかの検証が、必要である。

(教育委員会)

桑原は義務教育学校になり、学校運営協議会も一つになったが、みんなで子どもたちを育てていくというコンセプトはいいことである。

(教育委員会)

地域と学校が情報を共有し「地域をよくしていく」という共通認識のもと、課題を一つずつ解決しながら発展させていくことが必要である。

(教育委員会事務局)

それぞれ学校の規模や実態が異なっているため、学校に合わせた学校運営協議会、コミュニティ・スクールをつくっていくことが大事だと思う。

本日いただいた課題の中で、地域連携コーディネーター等の活用については、今後学校に助言していく。

(教育委員会)

「コミュニティ・スクールだより」は年に2回しか発行されないため、積極的にホームページを通して学校の情報を地域に知らせていただけるとありがたい。

4 閉会

以上